

まちしごとファクトリー

事業のポイント

■ 小さな地域での起業は、「まち」との連携を柱に「しごと」を組み立てることが大切です。地域の中でしごとを創りだし、地域を少しずつ変えていく。そんな取り組みを応援し、地域の新しい担い手を創り出す場が「まちしごとファクトリー」です。

事業の概要

1. 事業の目的

徳島大学、徳島新聞社、徳島県信用保証協会の連携により、地域で「まちしごと」を実践している実業家によるコラボレーション企画を通じて、地域で「まちしごと」を創り、実践するアクターを創り出すことを目的とした事業として、2年目の取組である。

2. 事業の取組状況

①キックオフ 8/6(土) フューチャーセンター『A.BA』

(株)リレイションの祁答院弘智氏をゲストに招き、実体験から「まちしごと」を学び、昨年度のまちしごとファクトリーの振り返りと今年度のプログラム紹介を行った。

②スモールビジネス開発室【にし阿波】

■まちしごと実験室 ～三好市創業セミナー実践編～

第1回:8/20(土)、第2回:9/10(土)、第3回:9/24(土)、第4回:10/10(日)、第5回:11/27(日)

三好市の協力を得て、起業予定者に地域との関係性に重点を置き、事業モデルを構築、地域の人へのプレゼンテーション、起業への段取りを支援した。

■「まちしごとと研究室」12/4(日) 脇町劇場オデオン座

にし阿波地区の住民を中心に、地域で活躍したいという思いを持っている方々が集まり、ゲストのplug合同会社吉成佳泰氏(兵庫県篠山市)の先進事例に学び、「うだつの町並みでマルシェをはじめると」というテーマで、グループワークとプレゼンテーションを行った。

③スモールビジネス開発室【佐那河内】

■「まちしごとと実験室」

第1回:8/27(土)、第2回:10/15(土)、第3回:11/12(土)、第4回:11/13(日)、第5回:12/17(土)

佐那河内村と連携し、起業予定者に地域との関係性に重点を置き、事業モデルを構築、地域の人へのプレゼンテーション、起業への段取りを支援した。

④まちげんきづくり開発室【小松島】

■フューチャーセッション 10/1(土)

小松島みなと交流センターKokolo

事業代表者・連絡先

山中 英生(徳島大学理工学研究部 教授理事/地域連携担当副理事)

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880

e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

小松島市の協力を得て、小松島市内の事業者・社会人・高校生・大学生などが参加し、「小松島市を活性化するには、どのようなビジネスが必要か?」「活性化に向けて、自分はどのように行動するか?」をフューチャーセッション形式にて意見交換を行った。

■まちしごと実験室

第1回:10/30(日)『街中フィールドワーク・事業計画の作成』第2回:11/5(土)『事業計画のブラッシュアップ・専門家からの課題抽出』第3回:12/10(土)『地元住民の方へのプレゼンテーション・基調講演』

徳島県信用保証協会の職員が講師となり、参加者の事業計画作成をサポートした。最終回では、小松島西高校ほか社会人5名が、地元住民に向け各々の事業を紹介。また特別講演として、地域ビジネスの支援で全国的に活躍されている、ETIC宮城代表理事(小松島市出身)より、基調講演とアドバイスをいただいた。

⑤公開授業 11/15(火) 徳島大学工学部創成学習スタジオ 生物資源工学科1年生との合同授業として、各実験室の参加者が学生の前でプレゼンテーションを行った。

⑥クロージング 1/28(土) フューチャーセンター『A.BA』

にし阿波、佐那河内、小松島の各実験室に参加したプログラム修了者からそれぞれのプランについてプレゼンテーションが行われ、さらに「まちしごと」の先駆者のみんなの孫プロジェクト代表の水柿大地氏と株式会社困ったことはなんですか?の白川誉氏をゲストに「まちしごと」を実践するにあたっての論点整理を行った。

3. 事業実施による成果と今後の展開

平成26年12月に連携協定を締結した徳島新聞社に、平成28年5月に連携協定を締結した徳島県信用保証協会が新たな仲間として加わり、まちしごとファクトリー2016では、多数の地域を支える起業家が生まれた。2017年は、①徳島大学フューチャーセンターを拠点とし、②徳島大学の授業科目となり、③県内のさまざまな地域と連携し、④「とくしま創成アワード」と連携し、継続して実施する。



キックオフ



佐那河内まちしごと実験室

